

15. AIBO の葬式

ソニー(SONY)から犬のロボット AIBO が初めて発売されたのは 1999 年。しかしソニーは 2014 年に AIBO の修理をやめてしまった。AIBO を本物の犬のようにかわいがっている人たちは、かわいい AIBO が故障したら、どうしたらいいのだろうか。

SF はロボットについて、いろいろな問題を示してきた。人間はロボットを愛することができるのか？ ロボットに心はあるのか？ ロボットは生きているのか？ 現代の日本社会では、人々がロボットと深い関係を持つようになった。それによって、こうした SF の問題に対して、少しずつ答えが出されている。

1999 年にソニーは、犬の形のロボット、AIBO を発売した。AIBO とは、Artificial Intelligence roBOt の略だ。初めに発売された 3000 台はすぐに売れて、その後も、たくさんの人がこのロボットのペットを愛するようになった。しかしソニーは、2006 年に AIBO の生産をやめて、2014 年には修理もやめた。そこに登場したのが、乗松伸幸さんだ。

乗松さんは、2010 年にソニーを辞めた後、古いソニー製品を修理する店を開いた。ソニーが AIBO の修理をやめると、乗松さんの店の客が増えた。古くなった AIBO 故障すると、その AIBO の持ち主は AIBO が「病気になった」ように心配する。そして、「病気」の AIBO を「治療」してもらうために、乗松さんの店に来るようになった。

乗松さんにとって、AIBO を直すことは単なる修理ではなくなった。「お客さんたちは AIBO を本当に愛している」と乗松さんは言う。AIBO の持ち主たちは、AIBO に心があると感じている。だから、持ち主たちにとって乗松さんは「医者」なのだ。

彼の店には、AIBO の持ち主からこんな手紙が届く。

「病気の母は、この AIBO をとてもかわいがっています。なんとか直していただけないでしょうか？」

持ち主が、具合の悪い AIBO の気持ちになって書いたメールもある。

「歩けなくなると、僕は死ぬしかないの?」

修理で直った AIBO を受け取った持ち主が、「大切な家族である AIBO の「命」と「健康」を取り戻してくれて、ありがとうございます」と泣きながら電話してきたこともある。

ソニーは約 15 万台の AIBO を販売した。古くなった AIBO は「老化」して、足がよく動かなくなったりする。乗松さんは一生懸命直そうとするが、AIBO はもう生産されていないので、新しい部品はない。部品を交換するためには、使われなくなった AIBO、つまり「亡くなった」AIBO の部品を使うしかない。乗松さんの「病院」では、部品交換のための順番を待つ持ち主が増えている。

しかし、乗松さんでも全ての AIBO の「命」を救えるわけではない。どんなに愛されている AIBO にも終わりの時は来る。2015 年の 1 月に、千葉県いすみ市にある光福寺というお寺で、初めて AIBO の葬式が行われた。光福寺の僧侶の大井文彦さんは、「AIBO の葬式はペットの葬式と同じです」と言う。両方とも、魂が体から離れるのを手伝うものだからだ。

AIBO が人々にこんなに愛されているのは、一時的な流行ではない。AIBO の「医者」乗松さんと AIBO の「僧侶」大井さんは、将来の社会でもっと必要になる仕事を、今の社会でしているのである。

2018 年 1 月に、ソニーは、最初の AIBO よりもっと犬に似た新しい AIBO を発売した。今後、社会には、人の形のロボットも登場するだろう。そして私たちは、ロボットともっと親しくなるかもしれない。

そうなれば、乗松さんや大井さんのような人たちがたくさん必要になるだろう。そして、SF が示した問題に対して、現実の社会からさらにいろいろな答えが出てくるだろう。

単語リスト：

葬式（そうしき） Tang lễ

SF（エスエフ） Truyện khoa học viễn tưởng

略（りゃく） Viết tắt

治療（ちりょう） Điều trị

単なる（たんなる） Đơn thuần

取り戻す（とりもどす） Lấy lại

僧侶（そうりょ） Tăng lữ

魂（たましい） Linh hồn

一時的な（いちじてきな） Nhất thời

さらに Hơn nữa